

生活環境コース・学校教育実践コース（家政教育専修）
科目区分：専門教育科目 科目名：被服学
担当教員：眞鍋郁代

平成 23 年度「授業評価・授業研究報告」

家政教育専修・眞鍋郁代

1. 授業の概観

本授業は、衣生活に関する基本的知識の習得を到達目標とする。具体的には、被服の役割、被服素材、被服の選択と管理について学び、習得した知識を実践する力を養うことを目的としている。対象年次は1回生からであり、小学校家庭科の教員免許の取得を目指す学校教員養成課程の学生や中学校家庭科および高校家庭科の教員免許の取得を目指す生活環境コースの学生などが履修している。

被服学は、自然科学のみならず人文科学、社会科学にまで及ぶ大変広範な学問分野である。そしてこれらの分野が有機的にかみ合っており、初めて大きな力を発揮する総合科学でもある。したがって将来、衣服学のどのような分野に重点的にアプローチするにしても、基本的に衣服材料に関する知識は必須であるといっても過言ではない。

ところで被服学のような実践科学では、実物に触れさせたり教具の工夫を行って被服材料の成り立ちや性能などを学ぶような授業方法が望ましいと思われたことから、今年度の本授業では、講義形式の授業で被服材料の成り立ちや性能、原理などについて配布資料等を読んで確かめ、図・写真によってわかるようにし、さらに簡易なモノづくり等によって応用できるように試みた。なお、今年度より班編成を行い、班単位による活動を取り入れた。

2. 授業評価法 と 3. 授業評価結果について

調査項目を以下に述べる。またそれぞれの質問項目における回答人数も（ ）内に併記した。

履修登録人数は27名だが、最終的に授業アンケートに回答した学生数は24名となっている。

A あなた自身についてお聞きします。

- (1) この授業にどのくらい出席しましたか。
全部（17名） 1,2回欠席（5名）
3,4回欠席（1名） 5回以上欠席（0名）
わからない（1名）
- (2) この授業に関して授業時間外の学習時間は1回の授業ごとにどれくらいしましたか。
2時間以上（0名） 1~2時間（3名）
30分~1時間（12名） 30分未満（9名）
- (3) 授業に対して意欲的に取り組みましたか。

十分に取り組んだ（8名） かなり取り組んだ（9名） 普通（7名） あまり取り組まなかった（0名） 取り組まなかった（0名）

(4) この授業を履修した理由

科目名（8名） 担当教員（0名） シラバスの内容（7名） 時間割の都合（2名） その他（自由記述8名）〔興味があったから（1名）、教員免許取得のため（3名）、家庭科の必修科目だから（3名）、家庭科副免のため（1名）〕

B 授業についてお聞きします。

(1) 先生の話し方（言葉・声の調子など）は適切でしたか。

そう思う（6名） どちらかといえばそう思う（10名） どちらともいえない（6名） あまりそう思わない（1名） そう思わない（1名）

(2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか。

そう思う（12名） どちらかといえばそう思う（10名） どちらともいえない（1名） あまりそう思わない（1名） そう思わない（0名）

(3) 先生は学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。

そう思う（7名） どちらかといえばそう思う（11名） どちらともいえない（6名） あまりそう思わない（0名） そう思わない（0名）

(4) 配布資料、教科書などの教材は適切でしたか。

そう思う（11名） どちらかといえばそう思う（11名） どちらともいえない（2名） あまりそう思わない（0名） そう思わない（0名）

(5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか。

そう思う（7名） どちらかといえばそう思う（14名） どちらともいえない（2名） あまりそう思わない（1名） そう思わない（0名）

(6) 授業の内容は理解できるものでしたか。

そう思う（6名） どちらかといえばそう思う（14名） どちらともいえない（3名） あまりそう思わない（1名） そう思わない（0名）

(7) この授業を全体的にみたとときに、どの程度満足していますか
満足している（7名） どちらかといえば満足している（13名） どちらともいえない（3名） あまり満足していない（1名） 満足していな

い(0名)

【この授業を受けて 良かった点 改善した方がよいと思われる点を具体的に挙げてください】

(自由記述)

良かった点に対する回答

将来役に立つ内容が身についた。
縫い方の指導のときにダンボールとひもをつかって分かりやすく指導していたところ。
材料を使ってもの作りをすること。
楽しく学習ができた。
授業に対する姿勢と物腰の柔らかい点。
リボンを使って糸の順番を学んだこと。
作業が楽しかった。指ぬいを初めてしたんですが、ただ作品をつくっておわりではなく、活用できたのがよかったです。
パワポやプリントなどの資料をしっかりと用意してくれた点。
実習があつて楽しかった。
手縫いやミシンをすることができた。
作品をつくれる点。
プリントがあつてわかりやすかった。
実習の時間が多く、習ったことを定着させられた。
今まで理解できていなかった縫い方がよくわかった。
プリントで説明を聞いた後、実習形式のものが用意されている点。実際に自分が体験することでより深く理解することができた。

改善した方がよいと思われる点に対する回答

- × 授業がわかりにくい。
- × 作業のときに結構時間がギリギリだったこと、またテスト前に家で作業しなくてはならない状況になるのがしんどかった。
- × 実習の少なさ。
- × 作業の時間が少なくて作品ができあがらないときがあった。(最後のペットボトルホルダーなど)
- × 課題が多かったり複雑だったり難しかったりした点。
- × ミスプリをなくす。もっと余裕を持って実習の時間をとる。
- × ゆっくり落ち着いて話してほしい点。
- × ずっと説明とかはしんどい。
- × 一つ一つの実習の時間をもっと多くとってほしい。

次に、本授業と教育学部 DP との対応について考える。卒業時に身につけるべき到達目標として、DP1.(知識・理解) DP2.(思考・判断) DP3.(技能・表現) DP4.(関心・意欲) DP5.(態度)が

定められている。それぞれの評価調査結果は以下の通りである。(調査人数 22 名中)

DP1.(知識・理解)

どちらかといえば対応していた(12名)

対応していた(1名)

計 59%

DP2.(思考・判断)

どちらかといえば対応していた(11名)

対応していた(1名)

計 55%

DP3.(技能・表現)

どちらかといえば対応していた(10名)

対応していた(8名)

計 82%

DP4.(関心・意欲)

どちらかといえば対応していた(12名)

対応していた(8名)

計 90%

DP5.(態度)

どちらかといえば対応していた(11名)

対応していた(6名)

計 77%

4.まとめ

授業アンケート結果より、授業者の話し方が適切か、担当教員が学生の質問や意見述べる配慮していたかについて、履修者のうちおよそ 1/5 が、「どちらともいえない(6名)」と回答しており、まだまだ改善すべき課題が多いことがうかがえた。

冒頭でも述べたとおり、本授業の分野は自然科学のみならず人文科学、社会科学にまで及ぶ大変広範な学問分野であることから、授業者として取り上げたい内容もまた広範囲にわたり、その結果、伝えたい内容が十分に伝えられなかったり、履修者からの意見・考えを取り上げることが不十分なままでおわってしまった。授業内容の精選が不十分であることが、主な原因として考えられた。

自由記述による評価 この授業の良かった点については、総じて実習形式が多かったことによる楽しさ、わかりやすさを挙げるものが多かった。反面、改善した方がよい点の一つに、実習が時間内に終わらないことが挙げられ、授業時間内に確実に終了できる教材への変更を望む意見が目立った。この授業の対象が1回生であることも併せて考えると、教材をというよりも、時間配分について再考することで改善を図りたいと思う。

最後に、本授業と教育学部 DP との対応について考える。DP3.~5.については、7割以上の学生が「どちらかといえば対応している」との回答を得たが、DP1.と2.については5割前後にとどまった。このことについても、授業で扱う内容を絞り込み、厳選することで、より確かな知識・理解の定着を、また、じっくり課題に取り組む余裕を持たせることで、DP1.(知識・理解) DP2.(思考・判断)の向上を図っていきたいと考える。